

# 「白鷹山夏山開き」が開催されました

令和5年5月13日(土)に、白鷹山山頂休憩所で「令和5年度 白鷹山夏山開き」が開催され、今年も多くの方が訪れ、登山等を安全快適に楽しまれるよう、安全祈願が行われました。

山形県県民の森エリア内にある白鷹山(しらたかやま)は、山辺町、白鷹町、南陽市の3市町を境にした標高994mの火山で、爆裂火口である県民の森一帯の湖沼群は、地域の水田の水源となっています。山頂には日本五大虚空蔵のひとつ福満(ふくまん)大虚空蔵尊がまつられており、郷土を代表する信仰の山になっています。

「白鷹山」の命名の由来は、奈良時代、高僧行基が訪れた時に白い鷹が飛来し、そこに虚空蔵菩薩が現れたという伝説のほか、雪に覆われた山容が翼を広げた鷹に見えるためとの説もあります。古くから農業や養蚕の神が宿る山として地元住民の信仰対象になっており、儉約に努め困窮した藩財政を再建したことで知られ江戸時代屈指の名君・上杉鷹山(米沢藩9代藩主)は、白鷹山を厚く信仰し「鷹山」の号はこの山に由来しています。

当日、当署からの参加者は、嶽原登山口の赤い鳥居をくぐり、大正年間に植林された荘厳な雰囲気漂う昭和天皇御成婚記念の美しい杉並木を進んでいきました。標高が上がるにつれ、新緑が美しい広葉樹林に変わり、1時間ほどで山頂に到着しました。

白鷹山の山辺町側に所在する国有林は「日本美しい森 お薦め国有林」にも指定されています。登山道には、美林の由来を記した案内看板や、植林当時尽力された山辺町畑谷区の方々や署員の名前が刻まれた石碑があるほか、雨水による路面の浸食を防ぐための「水切り」が丁寧に施されており、白鷹山が長い年月の間、地域の方々に愛されていることが感じられ、国有林の管理経営に向けて心を新たにすることができました。

